

エッセイ

## たかが川柳されど川柳（九）

上野 一彦

### 猫騒動

吾輩は猫が好きである。

小さいころからいつも家には猫がいた。近所の人も我が家の周りに猫を捨てていく。信仰心の厚い婆ちゃんがなんとなく餌をやったり、私もアジフライのやや贅沢なしつぽとか当時、貴重だった牛乳をそつと分けてやったりした。こうして物心ついてから、いつも私の周りには猫がいたし、その多くはしつぽの曲がった雑種の猫だった。

時は流れ、私が結婚をし、まだ子供がいなかった頃、母

の友人から縁があつて初めて血統書付きのネコをもらうことになった。母がペルシャ猫らしいよといったのでフローリングのモップ代わりにと思つて飼うことにしたのだが、なんと家に来たのは気性の荒い短毛のシヤム猫だった。名は26回目の出産とのことで、アルファベット26番目の文字「Z」で始まる名をつけるしきたりで「Zag」（熱心・熱中の意）とつけられた。本来ジールと呼ぶのだからうがジールと呼ばれた。

人を見る猫で、家にマージャンをしに来た大学の先輩が卓の上に猫が上ると邪険に追い払つた。牌の並ぶその辺

りに普段は猫が飲む水を入れたコップが置いてあつた。以来、その先輩が家に来ると敵意をむき出しにするジルであつた。出前に来る寿司屋の小僧ともなぜか相性が悪く、我が家だけ出前お断りとなつた。

いたずらな上に、人並み以上のジャンプ力があり、あらゆるものを爪にかけた。朝、机の横の明り取りの障子にものをぶつけ穴をあけてしまった。帰ってから直そうと、夕方、帰宅すると早く貼り直せとばかり、全面バリバリになつていた。

半面、臆病なやつで、初めて夫婦喧嘩をした直後、行方不明になつた。近所を二人で必死に探し回り、意気消沈していたら洗濯機の裏からひよっこり出てきた。総じて猫、いや動物はメスのほうが賢いということを実証する存在でもあつた。純粋種というのは意外と病弱で、ちよつとした隙に外に出て病気を移され、わずかに数年の寿命だったが、何十年分もの愛情を独り占めした。

その後、子供が生まれ郊外に引っ越したが、早朝テニスがささやかな趣味であつた。ある朝のことコートわきに子猫が段ボールに入れられ捨てられていた。無理を承知で家に連れて帰り、こっそり書斎と称するコーナで飼いだし、まずは子供たちと対面させた。

子供たちは予想通り、その子猫に夢中になつた。名は当時大河ドラマのヒロインからとつて「愛（めぐ）」とつけた。こうして子供の力を借りて何とか飼うことに成功した。家の前は広い畑で、一応、家猫ではあつたが、トイレや留守の時は外に出しておけば、手のかからぬ自立した猫でもあつた。老衰で大往生するまでなんと25年も生きた。その後、私自身たくさん人生の荒波をくぐることとなるのだが、生き物を飼うことは全くなかつた。しかし、生来の猫好き、猫の絵本や写真集、置物などほもちろんだが、町のペットショップで、かわいい猫を見るとうつとりと時を過ぎすこともよくあつた。

ある日、店に行くとき耳の異様に小さい不細工な子猫がいた。そのとき私の中で運命の出会いとでもいうべき稲妻が走つた。その日からそのスコティッシュフォールドという種の猫を飼うのが私の夢となつた。

家内を散歩と称して件の店に連れていき、偶然、逢つたかのように対面させた、「かわいいわね、でも飼わないわよ」でおしまい。手を替え、品を替え籠絡しようとしたのだが難攻不落、お値段も気に入らないらしい。車を衝動買いたした時だつてもつと理解があつたのに・・・

ある日、知人から、さるブリーダーが倒産し、たくさん

の猫を預けた方から引き取り手を探しているとの耳寄りな話があった。なかには相当いい猫もいるらしい。千歳一遇のチャンス到来。早速問い合わせてみると念願のスコティッシュフォールドもいるではないか。待ちに待った日が来た、これからも猫との蜜月の老後を考えると体が震えた。早速家内にこのとびきりおいしい話持ちかけると、たった一言、「だめ！」続いて、「そんなに飼いたければ私が猫になってあげます」

それからは私が「猫ちゃん」と言うと、とりあえず「にゃー」と応えるようになった。そんな失意のある日、「あーあ、こんな化け猫に育ちまってる」とつぶやくと、「家にはトドだつて飼っているんですからね」それ以来わが家から猫はいなくなつた。

### たかが川柳 されど川柳 (平成二九年上半期)

(川柳同人「多年草」(毎月)、川柳同人「だんだん」(隔月)に発表した拙句を解説付きで載せています。)

おまけにうどんと間違えて腰があるとかないとか。つなぎが入ってるほうがなんとなく食べやすい気もする。そばつゆもどっぷりつけて。

### 個性化で今や百人百色に

個性化の時代、十人十色じゃ間に合わない。そこで百人百色とやったがいかなものか。

だんだん 新年句会

### 題詠「面」

#### 面倒を見る約束が掛け続け

一生君の面倒を見させてくれといったかどうかは別にして、今はすっかり世話のかけっぱなし。最後まで頼みます

#### 外面のよさが取り柄と家の者

家では仏頂面サービス精神のかけらもない。ところが外では結構豆で面倒見がよいと評判。そういう御仁がいます私のことではありませんけど。

多年草(八九号)

### パスワード通れと念じキーを押す 佳作

最近、使っていたパスワードを変えろとかいわれ、気がつくど覚えのあるPWがどれも拒否されうんざり。うまく

一月

だんだん(五一号)

### 迷人がスマホ片手に将棋指す

名人戦でも対局中中座したら AI の助けを借りたとか借りないとか問題になりました。人工知能も進化したものです。

### 手離した土地に最後の花が咲く

やむなく故郷の土地を手放すことになった。そこに咲く野の花、ニワゼキショウ、ねじり花・・・ただの野の花がこれが最後かと思うととりわけ愛おしい。

### お互いに認知症かと心配し

お互いに忘れ物やら勘違いやら。ひよつとしてお前も認知症が始まったんじゃないのかとお互いに心配をすることもふえてきた。

題詠「十・10」

### パラ五輪五輪重ねて一人立ち

最近、「五輪」でなく必ず「五輪パラ五輪」と重ねる。やつとパラリンピックも世の中に認められ独り立ちしたようだ。

### 二八蕎麦喉ごし決めるのはつなぎ

十割でなきやというそば通もいるが結構ぼそぼそする。

通つてくれと念じる気持ちを読みました。

### どなたさんホームの母のご挨拶 佳作

今は亡き母、会いに行く度に認知症の進行が気になった。最後まで息子の私を覚えていたが、ついにそれも怪しくなつた日のショックは忘れられない。

### 遺すものないが遺言書いてみる 佳作

昨年、父が逝つた。自分の番が近づいていることを実感する。正直遺言など書いてみようかなという心境にもなる。

題詠「力」

### 暴走車老人力を見せつける

運転免許証をいつ返納しようかということが仲間内でも話題になる。アクセルとブレーキの踏み違えも他人事ではない。これも良い意味ではないが老人力か。

### 足りぬのは知恵か努力か運ですか

物事の運びの裏にはいるるな要素が絡む。どれかが欠けてもうまくいかない。そうしたことがわかる歳になりました。

### 家事が増えぼくの女子力開花する

掃除、洗濯、料理、家にいるといろいろ期待される。これこそ女子力の開花。主夫の鑑です。

二月

多年草(九〇号)

待ちわびた牛久の里に春が来た 佳作

横綱の期待させるも三度四度。稀勢の里やつと昇進。いつの間に横綱らしい顔になる。そして初優勝。横綱初の場所、一三日目初黒星、そして負傷、一四日目やはり無理出場の黒星、千秋楽本割の突き落とし、優勝決定戦捨て身の小手投げ勝利。奇跡の逆転勝利、あの歴史に残る貴乃花並みの感動大巨編。

また一つ昭和の星が流れ墮つ

松方弘樹、渡瀬恒彦と同世代の昭和の銀幕スターが次々と鬼籍に。スターを流れ星に見立てての一句。

ファーストの衣装をエゴが身にまとう

アメリカンファースト、都民ファースト、〇〇ファーストの大流行り。とどのつまり自分達のエゴむき出しの場合もある。

題詠「若者」

若者に席譲られて春を知る

現代っ子はどこか不器用でぶつきらぼう。優しい気持ちはあっても素直に示せない。そんな若者から思いがけなく席を譲られると、その日一日、こころ楽しく、まる

で春が来たよう。

タトゥーいれ鼻ピアスして選挙行く

選挙年齢の引き下げ。新人類も同じく一票。まさに宇宙規模になっていく感じがする。映画「スターウォーズ」の気分。

スマホ手にヒラリヒラリと宇宙人

歩きながらスマホの操作。転びもせずぶつかりもせず。その様はこれぞまさしく宇宙人。

三月

だんだん(五二号)

家系図をホーム行くたび母に描く 銅賞

認知症になると家族関係がわからなくなるらしい。息子と孫が兄弟になったり。それも一時のこと。亡くなった母が最後まで分かっていたのは父ではなく息子の私だった。

立ち枯れの木立それでも凜として

そんな立木を見ると、自分も年老いてもそうありたいものと改めて思う。

星つなげ天に絵を描くギリシヤ人 佳作

ロマンチストは星座が好き。天空をキャンバスによくぞ名付けたものと、そのイメージ力に感嘆する。ギリシヤ神

話とギリシヤ人の関係はよく分からないが。

題詠「口・くち」

人口を増しもせずに年金論

少子化が進む中、年金の先行きは暗い。根本的解決は人口増。その解決策を立てぬままの年金論。約束を守らぬままの小手先措置は政治の貧困そのものではないか。

円満の秘訣は口を閉じること 佳作

雄弁は銀、沈黙は金とはいわれるが、夫婦仲でも往々にして沈黙が家庭平和の礎と思うことがしばしば。これも年の功かも。

議員さん戸は立てられず頭さげ

他人の口に戸は立てられずとはいうが、驕った国会議員が本音をボロリ。追求されても深くおわびしますと頭を下げ、時の過ぎるのを待たつばかり。選挙まで憶えていて欲しい。

多年草(九一号)

内助の功右寄り過ぎて踏み外す 佳作

夫唱婦随、総理夫人は戦前の教育賛同者。こうした右傾化目立つわけですが夫を支援するどころか足を引っ張っている。その様を読んだ時事句。

水温みオタマジャクシの歌聴こえ

まさにオタマジャクシは池の五線譜上の音符。それは春の一光景。

歴史から何も学ばずゴミの上

ゴミの上に、ゴミのような人が群がる。大阪森友学園問題。歴史に残したくない時事句ですね。

題詠「検査」

検査値を下げる努力も三日間 銅賞

人間ドック、検査前の一週間、結果を聞いての三日間しか努力しないのでは生活習慣病には勝てませんね。

結果見て医者と薬に文句言う

自分の不摂生を棚に上げ、つい文句を言ってみたくありません。

パリウムも割といけるといった友 佳作

イチゴ味のあれ結構よかったよと言われ腰を抜かした。なかにはお代わりした剛の者もいたとか。その友も今は鬼籍に入ってしまった。

四月

多年草(九二号)

FAXで総理夫人は籠の鳥 佳作

出過ぎのノー天気な総理夫人 あんのかわしい籠池氏が堂々として見えます。

誰よりも散るべき時を知る桜 金賞

「ちりぬべき時知りてこそ世の中の花も花なれ人も人なれ」という細川ガラシャの短歌思い出します。人もかくあれという句。

防相は記憶を盾に守りぬき

多数の横暴というか詭弁で生き残る情けない防衛大臣  
こんな人に国を預ける意識の低さがわが国のレベル。

題詠「後」

幼な子はもうしませんと後を追う 佳作

街中で「もう知りません」と突き放す母親の後を泣きながら必死に追う幼子を見ることがあります。

強弁し後は詭弁の積み重ね 佳作

政治家によくあるパターン 幕引き逃げ切り 人の噂も四十九日とはよく言ったものだ。

免許証返した後に進む歳 佳作

ブレーキとアクセルの踏み間違えによる高齢者の事故のニュースよく目にします。自分でも実感するときもあり他人事ではありません。最後の砦のような。

五月

だんだん(五三号)

何を言う徘徊でなく散歩です 佳作

歳をとるとエクササイズの散歩が増えます。しかし家を出た切り迷子になったりするとそれは徘徊。本人はどれほど意識しているかが問題です。

やっと知る無為な眠りの心地よさ

早朝型の私でも、朝方の二度寝をすることもある。あるというより睡眠のリズムが崩れいつまでも床の中にいる快感を覚えつつある。永遠の眠りが近いのか。

ポピュリズム正義と秩序より利益

保護主義というか、大衆迎合型のリーダーがあちこちで目に付く。こういう政治家は、世界的な正義感とか全体的秩序よりも、自国の利益どころか個人的な利益を優先する。それを見抜けない我々も情けないと思うが。

題詠「旅」

弥次喜多の旅もそろそろ上りかな

友達にしろ、夫婦にしろ、楽しい時間がいつまでも続きそうだが突然局面が変わってしまうことを知る。そんな予感を感じつつも日々少しでも充実させたいものだ。

小旅行これを最後と積み重ね

これが最後かなと言いつついいことを言いながらもだん欲に楽しみを重ねる。でもそれでいいんじゃないのかな  
冷めきった笑顔で妻はVサイン

カメラを向けると「またあ」ととりあえずポーズ。もつと感動してほしいなと思いつつシャッターを切る。

多年草(九三号)

大気汚染中華事典にない言葉

隣の国の迷惑など全く考えない国があります。きっと大気汚染なんて言う言葉は辞書にないんでしょうね。

禁止せず原爆ドームが泣いている

国連の核禁止条約にアメリカの顔をたてて参加しない日本。被爆国としての矜持はどこに行ってしまったのでしょうか。

安心が安全よりも高くつく

市場移転の問題は結局安全よりも安心が重視されたわけで、結論は大山鳴動鼠一匹と言う感じ。

題詠「近所」

わが子泣く通報怖れ雨戸閉め 銀賞

六月

多年草(九四号)

妻は言うボケの兆しは最初から

何をいまさら始まったわけではなく、「最初からそうだったわよ」は慰めかそれとも・・・

モリとカケのびて内閣食あたり 金賞

森友、加計問題、対応の悪さに国民はうんざり。一強のおごりがここまできると支持率にも反映するでしょう。

駄々っ子にイカンイカンを繰り返す

駄々っ子は北朝鮮、その暴挙にただ遺憾の意を表する

政府。どうもこうした表現分かってもらえないようです。



題詠「心」

イグアスの滝（ブラジルから）

温暖化心を冷やす離脱です

アメリカのというよりトランプ政権のパリ協定からの離脱。アメリカも落ちたものです。アメリカファーストで世界がうまくいくとも思えぬが。

良心がいつも飛躍のジャマをする

いざというときひるむのは凡人の常。そこでふりきれれば新しい境地に達するのかもしれないが。まあやめておこう。

席詰める気配りあつての日本人

電車などで座っている方々が席を詰めてスペースを空けてくれると、日本人だなあとなんとなくうれしくなる。年配の方が多いが。優先席でスマホをひたすらいじっている若い娘さん、いつかそんな心配りのできるお年寄りになってくれるのかな。

（丁）